



# 羅針盤

## No.78

東港金属株式会社

東京都大田区京浜島2-20-4

電話 03-3790-1751

URL <http://www.tokometal.co.jp>

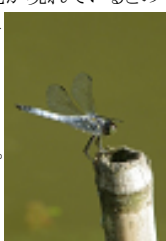
(見学受付)

電話03-3790-1751 又は 各営業担当

\*9月、秋彼岸も間近です。とにかく暑い8月でした。8日には、山梨県奥石の39.1℃を筆頭に国内191地点が猛暑日となり、その後も酷暑が続きました。この暑さは今年だけではないようです。地球規模で確実に温暖化が進んでいるとの報告では、海外も豪雨に沈む都市、反対に早魃に苦しむ国、そして海流にも変化が現れているとのこと。我が国の近海漁業でも今までと違った魚の水揚げが増えています。6月まで皆無だった台風は、8月までには10個も発生し、直撃された東北、北海道に大打撃を与えました。先行き、当分野菜類の高値が続くとの予想です。秋晴れの空が早く現れることを祈りましょう。この恵まれた四季の変遷がいつまでも続く日本であってほしいものです。

\*オリンピックから国中が感動と勇気をもらいました。選手たちの努力には及びませんが、よく食べ、よく眠って夏バテから早く脱出し、元気を出して年頭の計画を見直してはどうでしょう。

\*東港金属株式会社は非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物の処理を“いつでも”お受けいたします。身近なリサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。



### ★羅針盤

- 鉄スクラップ** → 考察) 8月は、指標となる東京製鉄宇都宮工場特級価格が18,000円/トンでスタート。中盤は輸出価格上昇の影響で1,500円/トン上げました。9月は、鉄スクラップの需要が上っているわけではなく、また円安進行でもありませんが、欧米品よりは割安のため輸出価格は下がっていないことから、多少の上げが予想されます。
- 銅** → 考察) 8月はLME4,920ドル/トン、国内銅建値550,000円/トン、外貨購入・預入レート103円でスタートし、原油価格の下げやニューヨーク株の下落等により下げが進行し、最終的にはLME4,600ドル/トン国内銅建値510,000円/トンまで下落。9月はLMEが4,600ドル/トン台で変わらない為、現為替では横ばいでしょ。
- アルミ** → 考察) 8月はLME1,640ドル/トンスタートし最終的には1,620ドル/トン。大きな相場変動はありませんでした。9月予想は、自動車生産台数も低調であるため横ばいでしょ。
- プラスチック** → 考察) 原油安・円高、9月は全般的に下がるでしょう。価格だけでなく、品位が一層厳しくなり、有価にならないものが増えるでしょう。

8月予測の自己評価

鉄スクラップ	×	アルミ	○
銅	○	プラスチック	○

## 鉄・非鉄スクラップ・市況からの9月予測

営業部 Y の考察



### (第3回) ミラクル・Let's・スター

残暑厳しい中、いかがお過ごしでしょうか。すっかりセミの鳴き声も止み、たまに見かけるトンボの姿に秋を少し感じられるようになりました。こんにちは、東港金属の小谷です。

暑い夏をさらに熱くしてくれたオリンピックも終わりました。今回のオリンピックはメダルラッシュとなり、次回の東京オリンピックへ大きな希望となりました。皆様の中にも、いくつかの感動の余韻がまだ残っていることでしょう。私は、柔道の男子全階級メダル奪取と100m×4の男子リレーの銀メダルが心にとっかりと刻まれました。

すでに、数回このコラムを書かせていただいているのですが、気づけばスポーツの話題ばかりになってしまいました。

スポーツは非常にわかりやすく、しがらみなどを考えることなく話題にできるので、取り上げやすいという面と、もう一つ理由があります。

私がニュース等を見る際は、スマホを利用することが多いのですが、そのニュースのピックアップ方法にはAI(人工知能)が使われているとのこと、その利用者の趣味・趣向に沿ったニュースが掲載されるようになっているようです。ですので、スポーツの記事をよく読む私の場合はスポーツに関するニュースが集中することになるのです。

昔、アナログとデジタルの違いをディスカッションする機会がありました。まず、アナログとデジタルの線引きから入りましたが、非常に複雑となり、アナログ時計とデジタル時計の違いにテーマを絞り検討することになりました。

昔の話ですので、今あるようなスマートウォッチなどはなく、数字を指し示すアナログ時計と数字を表示するデジタル時計を対象としました。結果、アナログ時計は全体の一部を表示するものであり、デジタル時計はその一瞬を表示するものと結論付けることとなりました。

インターネットが出来たころは、知りたいことを調べることの利便性を覚えて瞬間に世界中を席卷しました。そして今は、情報を提供する機能へと変化しています。

ある種、より便利になった感があるAI化ですが、このコラムのような小さな欄では見ていただいた通り視野が狭まってしまう可能性も秘めているのではないかと考えるようになりました。先程の時計の話のようにアナログである新聞というのは、その点をカバーする上では非常によいものであるのではないかと思います。大きく広げ見出しだけ斜め読みすることもでき、普段は興味を持っていないような話題にも目を通すことができます。

これから秋が深まるにつれ過ごしやすくなってくると、スポーツの秋や読書の秋と、なにかと一念発起するにはいい時期になるので、改めて新聞に目を通すことを心掛けたいと思うようになりました。

知らない世界を見ることや、知識を深めることは、体により刺激を与え若さを保つ秘訣となります。

皆様が足踏みされていたこと、一度挫折してしまったことなど、この機会に始められてみてはいかがでしょうか。

それでは、またお会いできることを楽しみにしております。

営業部(小谷 和之)

### ★羅針盤

## 「SOLAS条約」と国際海上輸出コンテナの総重量の確定方法の制度化

「海上における人命の安全のための国際条約」は、船舶の安全性確保のための規則を定める多国間条約の名称で、英語での名称はThe International Convention for the Safety of Life at Seaであるため SOLAS条約とも呼ばれております。

本稿では、スクラップ等を輸出する際に利用する「海上輸出コンテナ」に関連するSOLAS条約の概要を掲載いたします。

1912年のタイタニック号海難事故を契機として、船舶の安全性確保のため救命艇や無線装置の装備等の規則を定める条約が1914年に締結されたのが初のSOLAS条約ですが、第一次世界大戦の影響で発効には至りませんでした。

1914年条約に新たな安全規制を追加するなどの修正を加えた条約が1929年に締結され、1933年に発効し、その後も1948年および1960年に改正条約が結ばれました。

日本が1980年5月15日に加入した時点のSOLAS条約は、今後の技術革新等に即応するため、条約改正手続きの簡素化などの修正を加えた1974年条約でした。

その後30回以上にわたり改正を経て、近くは2001年のアメリカ同時多発テロを契機に2002年に改正が行われ、テロ対策として港湾関連施設についても侵入防止等の保安対策を強化することが義務付けられました。また、条約に基づき、外航船と国際港湾が順守すべき国際規則＝ISPSコードが2004年7月1日付けで発効。外航コンテナ定期船業界でもISPSコードに適合し、船舶・貨物の輸送途上での安全と保安確保を目指した動きが活発化しましたが、運送業者の費用負担が増加し、荷主に対してISPSチャージなどのコスト転嫁も行われております。

現行の条約では、国際海上輸出コンテナの総重量を船長に提出することを荷送人に義務づけていましたが、総重量の誤申告に起因するとみられるコンテナの荷崩れ等の事故が発生していることを踏まえ、**総重量の確定方法**が、本年7月1日より発効する改正SOLAS条約に定められました。

国土交通省では、この改正SOLAS条約を実施するため、関連する規則を一部改正するとともに、「海上コンテナの質量の確定方法を定める告示」として、①荷送人が船長等に提供するコンテナ重量情報の確定方法(重量の測り方)、②コンテナ重量情報の確定を行う者の登録制を制定しました。

1948年7月1日以降、スクラップ等を海外輸出する荷送人は、前述の登録された②の者が、①の方法で確定した重量情報を、船長に提出しなければならなくなっておりますので、ご注意ください。

尚、国土交通省からは「国際海上輸出コンテナ総重量の確定方法ガイドライン」が発行されておりますので、ご参考としてください。 <http://www.mlit.go.jp/common/001129996.pdf>

参考文献:国土交通省ホームページ、ウィキペディア

